

# 「過ぎる」についての一考察

## —「期限が過ぎる」と「期限を過ぎる」を中心に—

### A note on sugiru

— Focusing on the differences that exceed the time limit, -ga sugiru and -wo sugiru —

京谷美代子\*

Miyoko Kyoya

#### Abstract:

There are various things to distribute the kind of the verb, and there is a thing to divide into one with "an intransitive verb, a transitive verb". An intransitive verb and a transitive verb exist by the topological opposition of the verb, and there is generally each correspondence pair, "a door opens"; "open a door"; and "it is lighted"; "switch the light on", etc. In addition, "Eyes are open (one's open eyes)" and "one's open eyes" the verbs in Japanese are semantically same and isomorphism, this kind of verb is called double-sided verb. I analyzed the difference "to pass the time limit" and "a time limit was over" focus on "sugiru", then using a corpus analysis of the meaning function in this study. As a result, it became clear that "ga" or "wo" was chosen by antecedent, either "the time limit" is as a point, or a period, and it was revealed that a difference was not recognized about the use the "ga" or "wo" in "kigen ga/wo sugiru". It is said that "sugiru" is an intransitive verb, but have the same sememe, therefore it may be said that it is a for two uses verb, double-sided verb.

#### キーワード:

過ぎる、自動詞、他動詞、両用動詞、「ヲ格」をとる移動動詞

#### 1. はじめに

動詞の種類分けには様々なものがあり、その一つに「自動詞・他動詞」で分けるものがある<sup>1)</sup>。動詞の形態上の対立により自動詞と他動詞が存在し、一般的にはそれぞれに対応するペアがある。自他対応ペアの動詞には「あく、あける」、「とめる、とまる」などがあり、「ヲ格」を共起する「ドアをあける」「車をとめる」などの動詞が他動詞とされる。しかし絶対自動詞（死ぬ、泣く等）、絶対他動詞（食べる、作る等）のように対立を持たない動詞

もあれば、「ひらく、とじる」のように「目がひらく」「目をひらく」、「目かとじる」「目をとじる」などと、自動詞と他動詞が同形で意味的にも同じである、「両用動詞」と呼ばれる動詞も存在する。

一方、「過ぎる」は自動詞であり対応する他動詞は「過ごす」とであるとされるにもかかわらず、「期限が過ぎる」「期限を過ぎる」の両方の言い方が可能である。

本研究においては「期限が過ぎる」「期限を過ぎる」を中心に、ヲ格を取る動詞の特徴

\*佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科 日本語別科

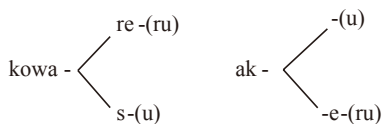
を分析し、また、コーパス（現代日本語書き言葉均衡コーパス「少納言」）を用いて「～が過ぎる」と「～を過ぎる」の相違と、その意味機能の分析を試みる。さらに「賞味期限が過ぎる<sup>2)</sup>」と「賞味期限を過ぎる」のどちらを用いるかについてアンケートを実施し、実際の使用状態を確認する。

## II. 先行研究

寺村(1996:304-305)は『日本語のシンタックスと意味 I』の中で、日本語には相対的な自動詞、他動詞が非常に多く、両用動詞は非常に少ないと述べている。

絶対自動詞…………死ぬ、泣く、歩く、走る 等  
絶対他動詞…………殺す、切る、食べる 等  
相対自／他動詞 …壊れる／壊す、回る／  
回す 等  
両用動詞…………開く(ヒラク)、閉じる 等

相対自動詞、相対他動詞というのは、共時的に見て、ある共通の語根(Root)から自動詞、他動詞が派生したと見られるもの、ということである。



また、他動詞の方から自動詞の方を見ると、背後その延長線上に自発、可能、受け身の形が見える。自動詞の側に立って他動詞を見ると、その向こうに使役の形が見える。他動詞に対立する自動詞がないとき、表現的には受身がその役をすることがあり、逆に自動詞に対する他動詞がないとき、使役がその役を代行することがある、と言っている<sup>3)</sup>。

森田(2000:74,71)は「自他両用動詞から自他同形動詞へ」で、「立つ／立てる」のような語根を共通にする別形態の語形の対応

があるペア<sup>4)</sup>のほか、「水かさが増す／水かさを増す」「渦が巻く／渦を巻く」など、同じ一つの語が自他両用に働く例も見られ、語義もほとんど変わらない」と述べている。このような同形の動詞を意味論・文法論の見地から、動詞の自他の関係をその語が述語として取る文型の観点から眺めると、自動詞文型・他動詞文型の互いの文型転換の有り様から、6つに分類することができる、として一番目に以下の例文を挙げている。

### 1 AガBヲ他V／Bガ自V

私は財布を無くした。／

財布が無くなった。…①

自動車が土埃を立てる。／

土埃が立つ。……………②

私は夏休みを過ごす。／

夏休みが過ぎる。……③

森田(2000:70)

森田は、「意味にかなりの開きが見られる。しかし、同語であることに変わりはない」と述べているが、上の①と②の例文に見られる差異と、③の「私は夏休みを過ごす」と「夏休みが過ぎる」の差異では、意味的にかなり大きな差があると思われる。その理由として、「無くす」「無くなる」や「立てる」「立つ」は瞬間動詞に分類されるのに対し、「過ごす」「過ぎる」は時間的経過を考慮しなければならない動詞だからである。また移動動作を表す動詞は、場所や時間の通過点を「ヲ格」で表すという視点からの考察も必要であろうと思われる。

次の表1は自他両文型の非対称の例である。

また次の表2は、使役形や可能形を使ってペアを作る場合の例である。

表2のbの、{目がうるむ／目をうるませる}が可なのに対して、cの{雪が積もる／\*雪を積もらせる}は非文になる。これは文の主体が生体ではない、非意志動詞だからで

表1 自動詞他動詞の非対称

自動詞	他動詞
荷物が ×	荷物を積む
目がうるむ	目を ×
雪が積もる	雪を ×
大学が ×	大学を受ける
包帯が ×	包帯を巻く

出典：森田（2000）から筆者作成

表2 自動詞他動詞の非対称2 使役や受身を使用する例

自動詞	他動詞	代行の例	
荷物が ×	荷物を積む	a 荷物が積まれる	受身形を使う例
目がうるむ	目を ×	b 目をうるませる	使役形を使う例
雪が積もる	雪を ×	c 雪を ×	他動詞形を欠く例
大学が ×	大学を受ける	d *大学が受かる⇒大学に受かる	ガ格ではなくニ格をとる
包帯が ×	包帯を巻く	e 包帯が巻かれる	受身形を使う例
渦が巻く	渦を巻く	f （代行無し）	自他動詞の両用の例

出典：表1より筆者作成

ある。主体が生体である例として、eの{包帯を巻く／（腕に）包帯が巻かれる}にも同様のことが言える。人体に関するこの場合は、使役形や受身形を用いて代行することができる。同じ動詞「巻く」であってもfの「渦が巻かれる」と言うことができないのは、自然現象の「渦」と、「包帯」を巻くという人体に関わる意志的行為であるというのが理由である。このことから「巻く」は一部意義素を共有する自他両用動詞であると言える。

dの「\*大学が受かる」を合格するという意味にするためにはニ格を用いて「大学に受かる」となる。しかし「大学を受ける」は「受験する」の意味であり、この「受ける」「受かる」は意味が離れている例である。

ヲ格を取る動詞については、奥田（1983：144）の「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」に次のように述べられている。

とおりぬけるところをあらわす連語は、とおる、わたる、こえる、ぬける、すぎる、へる、よこぎる、のような動詞からできていて、ある空間を移動動作が通過することを表現している。

ここでは「場所」を過ぎる例として挙げられているが、「期限」のような時間については言及していない。

仁田（1993：16）は「格の種類に対する略述の項」の中で「主」「対象」のほか、「経過域」として次の例文を挙げている。

- (1) 各自、三日間を～自由に過ごすという～  
（八月は魑魅と戯れ）
- (2) 自分は汽車に一夜を明かして、（黒髪）

「経過域」には二つあるとし、一つは、主体が移り動く移動空間を表したものの、もう

一つは、主体の動きが通過する時間を表したものであると述べている。

また日本語文法事典(2014)によると、現代語の格助詞「を」は次の三つの機能を持つとされる。

- ① 対格 : 太郎が皿を割った。
- ② 移動格: 太郎が公園を歩いた。
- ③ 状況 : 太郎が雨の中をさまよった。

この中で②移動格の「を」は、移動動詞と共に、次のような三つの用法を持つとされる。いずれも何らかの「移動場所」を示す。

- (3) 子供が横断歩道を渡った。(経路)
- (4) 太郎が峠を越えた。(経由点)
- (5) 太郎が家を出た。(起点)

上記の(4)「太郎が峠を越えた」のように「を」の前の「峠」を「経由点」と考えた場合には、「期限を過ぎる」という表現も「期限」という「経由点」を越える、という言い方として可能になる。ここでの主体は太郎であり、「峠」は明らかに場所であって、そこを経由点、通過点ととらえるのは当然である。

「時間や期間を過ぎる」の場合には上記で挙げた移動場所ではなく、この「を」は仁田(1993: 16)の言う、主体の動きが通過する時間を表したもの(経過域(時間))と考えられる。移動動詞「過ぎる」の場合は必ず主体があり、「を」の前項には経過域が示される。(6)の例では「三日間」というのが経過域である。

- (6) 各自、三日間を～自由に過ごすという～  
(1)再掲)

佐伯(2017: 56)は「現代語における時間を表すヲ格について」で、〈対象〉〈起点〉〈経由点〉〈状況〉を表すヲ格と共に起する動詞において、「興味深いのは、次のようにヲ

格が時間を表す場合である」と述べている。

- (7) 時刻は午後十一時三十分を過ぎようとしていた。(BCCWJ<sup>5)</sup>: 有澤透世『世界のキズナ』)
- (8) 両親が国際学校で教えていた神戸で、11歳からの4年間を過ごした。(BCCWJ: 新潟日報 2003/5/13)

(7)は時間を表すヲ格が移動動詞と共に起する例、(8)は時間を表すヲ格が時間的経過を表す動詞と共に起する例である<sup>6)</sup>。

佐伯は、ただし時間を表す名詞句が点を表すか幅があるかについては注意する必要がある、として次の例を挙げている。

- (9) a. {3時を／青春時代を}過ぎる。  
b. \*10時を必死に駆け抜けた。／  
1990年代の前半を必死に駆け抜けた。  
佐伯(2017: 62)

### Ⅲ. 「～が過ぎる」と「～を過ぎる」

前述の佐伯(2017)が述べた「時間を表す名詞句が点を表すか幅があるかについては注意する必要がある」に考察を加える。

点を表すときには「1時を過ぎる」のようにヲ格と共に起しやすく、「1時間が過ぎる」のように時間に幅があるときにはガ格を伴う。

「\*時間を過ぎる」が使えないのに対し、「制限時間を過ぎる」は使うことができる。これは「制限」された「点」を越える(超える)、超過する、のであれば「を」を使用できることの例である。

- (10) a. 試合は9時に始まりました。今、11時5分です。  
b. 現在、時刻は11時を過ぎました。  
試合が始まってから2時間が過ぎました。
- (11) a. 彼は31歳のときに結婚しました。

今、33 歳です。

- b. 彼は 30 歳を過ぎてから結婚しました。結婚してから2年が過ぎました。

(10) b の場合、時刻が 11 時という通過点を越えた。そしてその時点から 2 時間が経過したという意味を表し、(11) b の場合にも、彼が 30 歳という通過点を越えた。そしてその時点から 2 年という時間が経過したという意味を表す。

以上のように、通過点の場合はヲ格を用いてその点を表し、2 時間あるいは 2 年という期間が経過した場合にはガ格で幅のある時間帯を表す。このように、「過ぎる」は前項の語が通過点か幅のある時間かによって、ガ格を用いるかヲ格を用いるかが決定される。

- i) 通過点を表す場合は、11 時、7:00am などの<「時刻」を過ぎる>

- ii) 幅のある時間を表す場合は、30 分、1 時間、2 年などの<「期間」が過ぎる>

- iii) 経過域を表す場合は、1980 年代、妊娠 3 か月、青春時代などの<「経過域」を過ぎる>

iii) の経過域とは、ii) と違って必ず主体があり、その動きが通過する時間をヲ格を用いて表すものである。

#### IV. 「過ぎる」の前項

「過ぎる」の前項の語によって、ガ格、ヲ格が選択されることを確認するために、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コー

表 3 「過ぎる（すぎる含）」の例文

前項の語	～が過ぎる		～を過ぎる	
	247 例	占める割合	464 例	占める割合
冗談／度／遠慮／悪ふざけ 等	75	30.3%	1	
時／時間／時代／日 等	57	23.0%	21	
時間（○年、○分）	43	17.4%	107	23.0%
特定の日／季節／春／昼 等	18		30	
期間	15		12	
～期	7		15	
嵐／豪雨	7		0	
期限／門限（1 例）	6		12	
時期／混乱期	6		15	
時刻	3		0	
車など	4		0	
場所（固有名詞、普通名詞）	0		142	30.6%
年齢	0		76	16.3%
心／頭	0		9	
ピーク	0		5	
程度	0		2	
段階	0		2	
その他（それ／復元等）	6		15	
合 計	247	100%	464	100%

出典：「少納言」検索

パス』(少納言)を用いて検索を試みた。結果は次の表3の通りである。ひらがな表記の「すぎる」も含め、「～が過ぎる」247例(「～がすぎる」43例を含む)「～を過ぎる」464例(「～をすぎる」57例を含む)で検索した。

### 1. 「～が過ぎる」「～を過ぎる」

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(少納言)を用いて検索した結果、「～が過ぎる」では「度が過ぎる」や「冗談が過ぎる」などが多く(77例)、また特定の時間(30分)が過ぎる時に多く用いられる(44例)ことがわかった。しかし「期限が過ぎる」は6例であった。

「嵐が過ぎる」「時刻が過ぎる」「車が過ぎる」はすべてガ格であり、ヲ格は見られない。逆に、「場所(例：銀座四丁目)を過ぎる」「年齢(例：20歳)を過ぎる」「心を過ぎる」はすべてヲ格である。ガ格は見られなかった。

「～を過ぎる」464例のうち、一番多かったものは、「場所」を過ぎる(140例)であり、二番目は「時間」を過ぎる(104例)で、三番目に多かったのは「年齢」を過ぎる(76例)であった。「期限を過ぎる」は12例(門限1例)であった。

### 2. 「時刻が過ぎる」

前節で述べたように「過ぎる」は前項の語によって、ガ格を用いるかヲ格を用いるかが決定され、点を表す場合は、11時、7:00amなどの<「時刻」を過ぎる>であるから、時刻の後接にはヲ格を伴うはずであるが、通過点の「時刻が過ぎる」の例も見られた。しかし具体的な11時、7:00amという数字ではなく、時刻という語が用いられた例である。

- (12) 私は母の死ぬ二、三日前から母の呼吸が干潮時に変化し、その時刻が過ぎると再び平静に戻る現象を発見しはじめた。  
(「月からのシグナル」：1995)

- (13) 夕暮れ時・西の空を見ると光がさしています。焼けるかな？時刻が過ぎると染まりました！久しぶりに部屋から眺める夕景です。(Yahoo! ブログ：2008)

### 3. 「期限が過ぎる」「期限を過ぎる」

期限を幅のある一定期間と認知した場合はガ格が選択される例は6例見られた。

- (14) 賞味期限が過ぎるると、味の劣化が始まります。(Yahoo! 知恵袋：2005)  
(15) 期限が定められている場合には、この期限が過ぎることによって遅滞となる。  
(「基本民法」：2004)  
(16) 現在お持ちの減額認定証の有効期限は7月末日です。有効期限が過ぎると使用できませんので、更新手続きが必要となります。  
(那覇市市民のひろば：2008)

「期限を過ぎる」の例文は12例あったが、1例の「門限」を除くと11例すべてが税金等の納期限や支払期限の例文であった。また12例すべてが「期限を過ぎると」のように後接に「と」を伴って用いられている。

- (17) 納期限は7月31日(木)です。納期限を過ぎると延滞金が増加されます。  
(市報わかやま：2008)  
(18) 支払期限を過ぎるとお支払できません。(Yahoo! ブログ：2008)  
(19) 履行期限を過ぎると賠償をしなければなりません。  
(「契約書式の作成全集：1996」)

### V. 「ヲ格」と「ガ格」

特定の日(立秋、お盆など)は通過点であるからヲ格の選択が多いと思われたが、「特定の日が過ぎる」は18例(7.3%)、「特定の日を過ぎる」は30例(6.4%)であった。

- (20) この月は残暑が厳しいが、立秋が過ぎると夕暮れにはひぐらしが涼しげに鳴き、秋の気配を感じる。

(「四季逍遥」：1997)

- (21) 一周忌が過ぎるころになると、互いに避けあっている様子が人目につき始める。

(「心に残るとっておきの話」：1995)

- (22) 五月の連休が過ぎると、自治会室で、一文自治会の委員総会があるので(略)

(「'60年安保と早大学生運動」：2003)

- (23) 長く、暗い冬が去り、春分の日を過ぎると、昼間の時間はますます長くなる。

(「ケルン大聖堂の見える街」：2004)

- (24) お盆を過ぎると、9月後半まで件数は極端に減ります

(Yahoo! 知恵袋：2005)

- (25) 冬の真ただ中だけど、十二月の冬至を過ぎると少しずつ日がのびていくんだよ。

(北海道新聞：2004)

(20) から (22) はガ格を取る例、(23) から (25) はヲ格を取る例である。これらの例文のガ格とヲ格を入れ替えても文が成立する。以下 (20) (23) の例を挙げる。(再掲)

- (20) a. この月は残暑が厳しいが、立秋が過ぎると夕暮れにはひぐらしが涼しげに鳴き、秋の気配を感じる。  
b. この月は残暑が厳しいが、立秋を過ぎると夕暮れにはひぐらしが涼しげに鳴き、秋の気配を感じる。
- (23) a. 長く、暗い冬が去り、春分の日を過ぎると、昼間の時間はますます長くなる。  
b. 長く、暗い冬が去り、春分の日が過ぎると、昼間の時間はますます長くなる。

## VI. 「過ぎる」の後接語

3節で見たように「～を過ぎる」の後接には「と」を伴う場合が多い。

- (26) 30歳(年齢) ←通過点

特に30歳を過ぎると、Gパンだけという訳にもいなくなり、今更ですが着る物も年相応にしたいと思います。

(Yahoo! 知恵袋：2005)

- (27) 思春期(～期) ←幅のある期間

子供が思春期を過ぎると、肌問題は環境的要因によるものがぐんと増えるという。

(雑誌 an.an：2005)

以下は「～が過ぎる」の後続する例である。

- (28) 賞味期限が過ぎると、味の劣化が始まります。( (14) 再掲)

- (29) クーリング・オフ期間が過ぎると一方的な解約はできず、販売店とトラブルになることがあります。

(大阪府広報紙「もみじだより：2008」)

- (30) 現在お持ちの減額認定証の有効期限は7月末日です。有効期限が過ぎると使用できませんので、更新手続きが必要となります。( (16) 再掲)

(29) (30) の例を見ると、「～が過ぎる」文の場合は、読点の位置が「と」の直後ではない。この例だけでは判断できないが、「～を過ぎる」のほうが、「通過点」を過ぎる + 「と」 + 「どうなる?」という解釈ができ、「と」との結びつきが強い。今回の言語資料では、「～を過ぎる」 + 「と」が、76.7%であった。それに対して「～が過ぎる」 + 「と」は46.5%であった。

## VII. 「過ぎる」は自他両用動詞か

「過ぎる」と意味的に同様の動詞として、「超過する」「超える」「越える」がある。これら



は自動詞であり、また移動動詞であるのでヲ格を取る。「会社の社員が1万人を超える」「難関を越える」等である。それによって、期間、期限を「こえる」ことが、「過ぎる」と言い換えられるので「期限を過ぎる」と言いやすいのではないかと考えられる。(31)は「賞味期限を超える」の例文である。この「超える」を「過ぎる」に換えても文が成立する。

- (31) そんなわけがない。人間がおいしく食べられる期限であると勝手に決めた賞味期限を超えると発がん性が上がる理由がない。消費期限をはるかに超えれば、体調不良になって、ガンの確率も少しは上がるでしょうが。

(Yahoo! 知恵袋：2002)

以上、「過ぎる」について見てきたが、自

動詞と他動詞を分類する上でヲ格を取る自動詞<sup>7)</sup>が多いことにも注意する必要がある。また、両用動詞として扱うには意義素の考察も必要である。たとえば、「荷物を持つ／体が持つ」や、「人を手伝う／若さが手伝う」のように、意義素を異にする動詞の場合には両用動詞とは見做されない。

しかし「過ぎる」は3節で見たように、(20) a のガ格をbのようにヲ格に換えても文が成立し、意義素も同じである。(20) 再掲)

- (20) a. この月は残暑が厳しいが、立秋が過ぎると夕暮れにはひぐらしが涼しげに鳴き、秋の気配を感じる。  
b. この月は残暑が厳しいが、立秋を過ぎると夕暮れにはひぐらしが涼しげに鳴き、秋の気配を感じる。

表4 アンケート結果 (メールで聞いた100名)

		北海道地方		東北地方		北陸地方		関東地方		中部地方		近畿地方		中国地方		四国地方		九州地方		沖縄地方		合計
		が	を	が	を	が	を	が	を	が	を	が	を	が	を	が	を	が	を	が	を	
10代	男								2										1			3
	女							1	1										1	1		4
20代	男							1		2												3
	女	1		2				1	3													7
30代	男			2				2	3	2			1									10
	女							7		2			1									10
40代	男							2	1								1					4
	女			1		1		2		4		1						2		1		12
50代	男	1						2	1		1	1		1	1							8
	女	1		1				9	1	5						1		2	1	1		22
60代	男							1		1												2
	女							1				1										2
70代	男															1		1				2
	女							1		2	1							1			1	6
80代	男					1		2														3
	女							1				1										2
100		3	0	6	0	2	0	33	12	18	2	4	2	1	1	2	1	6	3	3	1	100

①賞味期限が過ぎる ②賞味期限を過ぎる



「過ぎる」は、両用動詞の要素を一部持つ、自動詞と見なすことは可能であろうか。また、「過ぎる」の前項が点であるか幅を持った時間であるかの選択決定するものは何であろうか。

## VIII. アンケート調査と結果

コーパス結果では「期限が過ぎる」の例文はあまり見られなかった(2.4%)。しかしヲ格を使う例のほうも全体の2.5%であり、ガ格かヲ格かの選択については差異が認められなかった。また「賞味期限が過ぎる」は1例<sup>8)</sup>、「賞味期限を過ぎる」は0例であった。

コーパスにある言語資料は新規のものが少ないことも考え、「賞味期限が過ぎる」を用いるか「賞味期限を過ぎる」を用いるかについて、120名にアンケート調査<sup>9)</sup>を行った。

アンケートは、100名はメールにて、20名は口頭で実施した。以下の表4は2017年8月にメールにて100名(内訳としては、日本語教師、中学校教師、また学生をはじめ、社会福祉施設で働く成人)からアンケートを取ったものである。うち15名からはコメント付で回答を得た。(下のコメント参照)

また、20名(口頭)の出身は、関東地方17名(男性4名:80代、50代、20代、10代、各1名。女性13名:10代~70代まで数名ずつ)、北海道地方(男性1名:40代)、中部地方(女性1名:40代)、九州地方(女性1名:30代)である。

アンケート:「あなたは ①賞味期限が過ぎる  
②賞味期限を過ぎる どちらを使いますか」

### コメント (15名)

- a. 50代・女性(東京出身)女性3名→ケースによる。単体で使うなら①、文章中の一文節なら②(回答は①にカウント)
- b. 50代・男性(北海道出身)→次に名詞などの言葉が来る場合は、「～を」

を使用。「賞味期限を過ぎた肉。」(回答は①に)

- c. 40代・女性(大阪出身)→賞味期限は「過ぎる」じゃなくて「切れる」では?(回答は①に)
- d. 30代・女性(大阪出身)→書き言葉なら『を』じゃないか。話し言葉なら『が』じゃないか。(回答は②に)
- e. 40代・女性(福岡出身)→口語なら「が」、文語だと「を」。(回答は①に)
- f. 50代・女性(静岡出身)→日本語専門家。パッと思いついた感じだと、多いのは①で、それは賞味期限、が主語の場合か。「牛肉の賞味期限が過ぎた」人間が主語で「私は賞味期限を過ぎてから食べた」なら、②かなと思います。(回答は①に)
- g. 50代・女性(宮城県出身)→①だと「この〇〇は賞味期限が過ぎている。」②だと「これは明日賞味期限を過ぎる。」みたいに両方使います。カウントせず。
- h. 50代・女性(新潟出身)→中学校教諭。①②共に使わない。「賞味期限が・・・」なら「過ぎる」ではなく「切れる」を使う。カウントせず。
- i. 40代・女性(神奈川出身)→翻訳者。8.と同じ。
- j. 30代・女性(東京出身)→話すときは「が」を省くことがほとんど。(回答は①に)
- k. 40代・女性(愛知出身)→①②、場合と状況による。①は賞味期限自体が主体の場合で、②「賞味期限を過ぎる」は「賞味期限を過ぎて(人)が使用する場合は」のように、動作の主体が人間の場合に使うのではないのでしょうか。カウントせず。
- l. 50代・男性(大阪出身)→過去と未来で使い分けている。「賞味期限が過

きた」「賞味期限を過ぎる」。カウントせず。

- m. 10 代・男女（九州出身）→文法的には②が正しいが、普段使うのは①か？（回答は①に）
- n. 50 代・女性（関東出身）→どちらも使わない。「賞味期限が過ぎている。」なら使う。「賞味期限を過ぎたもの。」という使い方なら OK。しかし、「〇〇は賞味期限が／を過ぎている。」という使い方はしない。カウントせず。
- o. 50 代・女性（福岡出身）→ピンと来ない使い方。「賞味期限が切れてる。」とか使うけど。カウントせず。

アンケートの結果では年代を問わず、「賞味期限が過ぎる」と答えた人が多く、120 名のうち 98 名（82%）が「賞味期限が過ぎる」を用いると答えた。これは「賞味期限」が通過点ではなく、幅のある期間であると認識されているのだと思われる。

## IX. まとめ

「期限を過ぎる」は期限の日を通過点としてその点を越えたという考え方である。それに対し「期限が過ぎる」の場合は、その期限の期間が始まってから終わるまでの一定期間が終わったとする考え方である。そのため、「期限」を点と捉えるか「期間」と捉えるかで「ガ格」「ヲ格」が選択されるはずであるが、「期限が過ぎる」と「期限を過ぎる」のコーパス結果はほぼ同じ割合であった。

また、「賞味期限が過ぎる」「賞味期限を過ぎる」のアンケートでは、「ガ格」を選択する者が圧倒的多数であるという結果を得た。賞味期限というのは通過点ではなく、一定期間と認知されているようである。

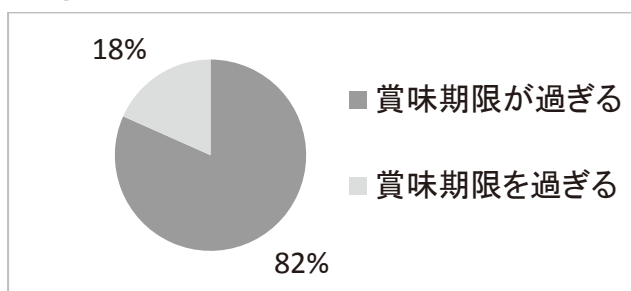
「過ぎる」は時間的経過、通過点を伴う自動詞であるとされている。自動詞であるからガ格が選択されるが、通過点としての場所の後項として用いるときにはヲ格を伴って使われる。

しかし、本研究で考察した結果、{ 期間が

表 5 アンケート調査結果（2016 年 10 月～2017 年 8 月実施）

年 齢	人 数	賞味期限が過ぎる	賞味期限を過ぎる
16～25 歳	26 名	18	8
26～40 歳	43 名	36	7
40～60 歳	34 名	29	5
60 歳以上	17 名	15	2
合 計	120 名	98 名	22 名

表 6 アンケート調査結果 グラフ



過ぎる／期間を過ぎる }、{ 特定の日が過ぎる／特定の日を過ぎる } などの場合には自動詞文、他動詞文としても成り立つことがわかった。このことから、「過ぎる」は、自他両用動詞の要素を持った自動詞と言えるのではないだろうか。

移動を表す動詞は、基本的にはヲ格を取る自動詞であり、これらの動詞には、歩く、通る、飛ぶ、越す、抜ける、等がある。それらが「過ぎる」とどのような差異があるかについては今後の課題にしたい。また、「過ぎる」の自他対応ペアである「過ぎす」の考察、「～が過ぎている／～を過ぎている」等のアスペクトを考慮した場合についても、今後検証していきたい。

#### 参考文献

- 奥田靖雄 (1983) 「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」言語学研究会 (編) 『日本語文法・連語論 (資料編)』むぎ書房
- 小柳昇 (2012) 「有対自動詞の両用動詞化のメカニズムー「場主語構文」の観点からの分析ー「コーパスに基づく言語学教育員会研究報告」No.8 東京外国語大学
- 佐伯暁子 (2017) 「現代語における時間を表すヲ格について」『日本語文法 17 卷 1 号』日本語文法学会 くろしお出版
- 仁田義雄 (1993) 『日本語の格をめぐる』くろしお出版
- 寺村秀夫 (1996) 『日本語のシンタックスと意味 I』くろしお出版
- 森田良行 (2000) 「自他両用動詞から自他同形動詞へ」『早稲田日本語研究』早稲田大学国語学会
- 森山新 (2008) 『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得ー日本語教育に生かすために』ひつじ書房
- 日本語文法事典 (2014) 大修館書店

#### 検証に使用したデータ

本稿で使用した電子言語資料は、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(少納言) である。

- 1) 他には、「意志動詞」「無意志動詞」、金田一春彦による 4 種類 (「状態動詞」「継続動詞」「瞬間動詞」「第 4 種の動詞」)、「能動詞」「所動詞」等の動詞の分類がある。
- 2) 「賞味期限が過ぎる」と「賞味期限を過ぎる」は筆者がいずれも活字を目にしたものであり、またアンケートを取る際、10 代にも 60 代にもわかりやすい「期限」であると考えたためである。
- 3) 3 ページ目の表 2 を参照。
- 4) この他、「手がふれる」「手をふれる」「手がふれる」の三つの形も存在する。
- 5) 「BCCWJ」は国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(少納言) からの引用であることを示す。
- 6) 共起する動詞について森田 (2000) は「時刻・期日」を表すヲ格は「自動詞で受ける例がほとんどである」とされているが、他動詞「過ぎす」の例も挙げられており、他動詞もいくらかは用いられることを示している。
- 7) 移動動詞 (去る、退く、通る、渡る、向くなど) や、移行・継続を表す動詞 (超える、上回る、経るなど)、時間的な概念を表す語を伴う継続性の動詞 (過ぎす、暮らすなど)、心情性の行為・作用を表す動詞 (焦る、怒る、わびる) は紛らわしいが、自動詞に分類される。
- 8) 「賞味期限が過ぎると味の劣化が起こります」(14 再掲)
- 9) アンケートは 2016 年 10 月～2017 年 8 月にかけて 120 名を対象に行った。脚注 2 にもあるように、筆者が両方の活字を目にしたことがあり「期限」としてわかりやすいと考えたためである。口頭、メール

で「賞味期限が過ぎる」、「賞味期限を過ぎる」のどちらを使うか（「賞味期限が過ぎる」「賞味期限を過ぎる」のそれぞれを単文で）を聞いた。＜「この〇〇は賞味期限が過ぎた」と言うが、「私は賞味期限を過ぎてから食べた」とも言う＞や、＜「話し言葉の場合は「賞味期限が」と言う＞、＜「賞味期限は「過ぎる」ではなく「切れる」を使う＞等の意見も聞かれた。最初に考えたほうを選んでもらったが、「どちらも使う／使わない／決められない」と言う場合は統計には含めなかった。男女差や地域差について違いが見られるかと予想したが、大きな差は認められない結果になった。